

はじめに

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止措置として令和2年3月3日より5月25日までのおよそ3ヶ月間を臨時休館とせざるを得ない状況の中でスタートしました。しかしその後も新型コロナウイルスの感染拡大は収まらず、結果として博物館開館当初から継続して実施してきた事業の多くを中止や縮小せざるを得ませんでした。職員においては、来館者の感染防止対策として手指のアルコール消毒や検温、展示室内の除菌対策など幅広く行わなければならない、一方では新型コロナウイルス感染への不安感から博物館入館者数も一昨年までの半数以下に落ち込むほど、博物館の機能や役割を十分に果たせない中での一年間となりました。

こうした中で、日田市は市制八十周年という節目の年に当たることから、日田市の歩みを振り返る企画展「水郷日田の風景～古写真で振り返る人々の思い出の場所」を開催しました。この企画展では、個人・団体を問わず多くの皆様のご協力をいただき、新型コロナウイルスの感染が治まらない中ではありましたが、世代を超えて多くの皆様に喜ばれる展示となりました。

引き続き新型コロナウイルス感染防止対策が必要な状況ですが、来館者に安心して利用していただける博物館運営を行っていきたくと存じます。

令和4年1月15日

日田市立博物館長 行時 志郎

《 目 次 》

はじめに

I	令和2年度の概要	1
	1. 博物館の施設概要	
	2. 組織・運営体制	
	3. 博物館日誌	
	4. 入館者の状況	
II	調査活動	7
	1. 大字羽田日の本町の有田川川底から発見された埋没樹木群	
	2. 自然環境調査事業(市民サービス協働事業)	
	3. 日田を流れる川の魚類調査	
III	教育普及活動	16
	1. 展示事業	
	(1) 日田市制80周年記念企画展	
	「水郷日田の風景～古写真で振り返る人々の思い出の場所」	
	2. 普及啓発活動	
	(1) 一般市民対象の自然教室	
	(2) 子どもたち対象の自然教室	
IV	その他	20
	1. オヤニラミの孵化の瞬間を撮影	
	2. 天瀬町馬原周辺の地層説明会	
	3. ウシ柄ウナギの展示	
	4. 天然記念物ニホンヤマネの発見と見学会の実施	
	5. 天ヶ瀬温泉地質勉強会	

I 令和2年度の概要

日田市立博物館は、昭和35(1960)年12月1日に開館しました。建物の老朽化に伴い、平成28(2016)年8月5日に複合文化施設アオーゼ3階へ移転し、本年度で5年目を迎えました。

1. 博物館の施設概要

(博物館の面積) 1,176.94㎡

- ・常設展示室 495.23㎡
- ・企画展示室 49.92㎡
- ・収蔵庫 198.09㎡ (1階/24.30㎡ 2階/18.91㎡ 3階/154.88㎡)
- ・事務室 91.71㎡
- ・ボランティアルーム 48.54㎡
- ・エントランス・通路 150.72㎡
- ・トイレ 33.72㎡
- ・給湯室 6.88㎡
- ・倉庫 102.13㎡ (機材倉庫75.37㎡ 書庫26.76㎡)

※複合文化施設全体の面積 2,036.92㎡

- ・敷地面積5,708.7㎡ (駐車場普通車52台収容)



日田のなりたちゾーン



自然と暮らしゾーン (手前は地形ジオラマ)



水辺のいきものゾーン



企画展示室

2. 組織・運営体制

博物館職員

令和2年度の職員体制については以下のとおりです。

《令和2年度博物館職員》

職名	氏名	備考
館長	行時 志郎	平成19年4月1日～
主幹（総括）	梶原 洋一郎	令和2年11月1日～令和3年3月31日
主査	橋本 知佳	平成29年4月1日～
主査	権藤 香織	令和2年4月1日～
会計年度任用職員	櫻木 健二	平成31年4月1日～
会計年度任用職員	高倉 大介	令和2年4月1日～

《令和3年度博物館職員》

職名	氏名	備考
館長兼主幹（総括）	行時 志郎	平成19年4月1日～
主査	橋本 知佳	平成29年4月1日～
主査	権藤 香織	令和2年4月1日～
会計年度任用職員	櫻木 健二	平成31年4月1日～
会計年度任用職員	高倉 大介	令和2年4月1日～

博物館協議会

博物館協議会委員の任期は2年間で、令和3年4月1日より新たに博物館協議会委員が委嘱されました。新旧の協議会委員は以下のとおりです。

《令和2年度博物館協議会委員》 任期：平成31年4月1日から令和3年3月31日

	役職	氏名	専門領域	備考
1	委員長	古田京太郎	植物生態	郷土日田の自然調査会会長
2	副委員長	奥森 修二	鳥類	日本野鳥の会日田支部代表
3	委員	園田 匠	環境	ひた水環境ネットワークセンター理事
4	委員	五島 英司	昆虫	日田昆虫同好会会長
5	委員	梶原 浩	植物	ひた少年少女発明クラブ代表
6	委員	石原 康弘	地質	光岡小学校長
7	委員	渡邊 良枝	社会教育	女性有識者
8	委員	木戸 道男	地質	久留米大学講師
9	委員	合谷 勝彦	植物	日田自然愛好会会長

《令和3年度博物館協議会委員》 任期：令和3年4月1日から令和5年3月31日

	役職	氏名	専門領域	備考
1	委員長	古田京太郎	植物生態	郷土日田の自然調査会会長
2	副委員長	奥森 修二	鳥類	日本野鳥の会日田支部代表
3	委員	五島 英司	昆虫	日田昆虫同好会会長
4	委員	梶原 浩	植物	ひた少年少女発明クラブ代表
5	委員	渡邊 良枝	社会教育	女性有識者
6	委員	木戸 道男	地質	元久留米大学講師
7	委員	合谷 勝彦	植物	日田自然愛好会代表
8	委員	梶原 達夫	天文	日田天文同好会会長
9	委員	橋本 裕太	河川環境・魚類	日田市農業振興課主任
10	委員	吉田 能晴	魚類	日田漁業協同組合専務理事

博物館協議会の開催

令和2年度の博物館協議会は、以下のとおり開催いたしました。

	開催日	議事内容
第1回博物館協議会	令和2年6月28日	有田川埋没樹木現地説明会
第2回博物館協議会	令和2年12月11日	令和2年度事業経過報告、令和3年度事業計画（案）
第3回博物館協議会	令和3年2月27日	令和2年度事業報告、令和3年度事業計画（案）

3. 博物館日誌

- 4月 1日 新型コロナウイルス感染症対策のため休館 ～5月25日(月)まで
- 14日 有田川出土埋没樹木運搬(日田市森林組合へ)
- 18日 第1回博物館協議会(中止)
- 5月 28日 市長・副市長有田川埋没樹木視察
- 6月 3日 出羽地層説明会(日田市観光協会天瀬支部 他関係者)
- 14日 有田川出土埋没樹木現地説明会(記者対象)
- 24日 西有田公民館(13名)見学
- 28日 有田川出土埋没樹木現地見学会(市民対象)
第1回博物館協議会(日田市森林組合)
- 7月 8日 国立科学博物館矢部敦博士有田川出土埋没樹木現地視察 ～9日まで
- 16日 日田支援学校(30名)見学
- 29日 標本燻蒸処理(～31日まで)
- 8月 3日 有田川出土埋没樹木(国立科学博物館へ日田市森林組合より運搬)
- 6日 宇美町教育委員会来館(埋没樹木を展示用として引渡)
- 7日 日田高等学校2年生(5名)職場体験
- 9月 8日 三芳小学校3年生(48名)見学

- 10月 13日 三芳小学校2年生(56名)見学
 22日 小野小学校2年生(6名)見学
 23日 いつま小学校2年生(10名)見学
 24日 企画展「水郷日田の風景～古写真で振り返る人々の思い出の場所」開始
 (～12月27日)まで
 29日 石井小学校2年生(19名)見学
- 11月 5日 南部中学校2年生(2名)職場体験
 6日 大山小学校2年生(15名)見学
 前津江小学校3年生(4名)見学
 10日 三隈高校(3名)職場体験
 13日 ニホンヤマネ見つかる(前津江町赤石)
 20日 日隈小学校2年生(45名)見学
 22日 明豊学園(15名)見学
 25日 ニホンヤマネ死がいで見つかる(前津江町柚木)
 29日 秋の探鳥会(亀山公園)(23名)
 博物館協議会委員奥森氏 市政功労者表彰(パトリア日田)
- 12月 11日 第2回博物館協議会
- 1月 20日 みくま幼稚園(19名)見学
 30日 自然調査報告展「大山町の自然～里山の自然とその魅力」開始
 (～3月28日まで)
- 2月 14日 冬の探鳥会(亀山公園)(37名)
 25日 朝日小学校3年生(23名)見学
 小野小学校6年生(10名)戸山神社についてのお話と博物館見学
 27日 第3回博物館協議会
- 3月 5日 ルーテル幼稚園(33名)見学
 9日 ニホンヤマネ見つかる(上津江町白草)
 12日 こども発達支援センター銀河(13名)見学
 18日 上津江町で発見されたニホンヤマネの見学会(すぎっこ保育園)
 ニホンヤマネ(前津江町柚木発見)の剥製制作を依頼(永松剥製製作所)
 21日 シロタカ剥製寄贈
 24日 常設展示室グラフィックパネル更新作業
 26日 木戸先生による天ヶ瀬温泉地質勉強会(日田市観光協会天瀬支部主催)

4. 入館者の状況

令和2年4月1日から令和3年3月31日までの年間入館者数は以下のとおりです。

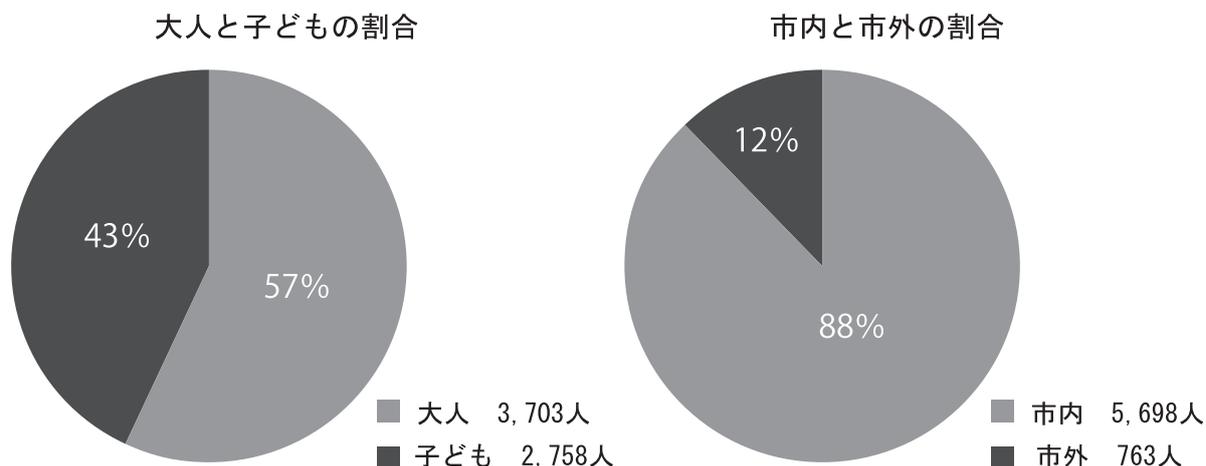
令和2年度入館者数（人）

	開館日数	大人	子ども	合計	市内	市外
4月	0	0	0	0	0	0
5月	6	30	19	49	47	2
6月	25	166	103	269	218	51
7月	27	259	259	518	464	54
8月	26	282	304	586	508	78
9月	26	191	240	431	380	51
10月	27	476	288	764	699	65
11月	25	860	356	1,216	1,095	121
12月	24	389	168	557	509	48
1月	24	302	313	615	550	65
2月	24	381	327	708	591	117
3月	26	367	381	748	637	111
合計	260	3,703	2,758	6,461	5,698	763

（開館日数 260日／休館日 105日）

※4月1日より5月25日まで、新型コロナウイルス感染拡大防止のため閉館。

入館者の比較



令和2年度の大人と子どもの入館者の割合は、大人の割合が子どもの割合を上回り、以前の子どもの割合が上回る傾向に比べて逆転する結果となりました。また、市内からの入館者と市外からの入館者の割合は、市内からが88%を占めており、これまでと同様に市民に多く利用されていることがわかりました。

また全体の入館者数としては、令和元年度と比べ半分以下に激減しました。新型コロナウイルス感染防止対策のため、昨年度3月から引き続き5月25日まで3ヶ月間は博物館が休館となっ

たこと、そして例年実施しているほとんどのイベント事業が中止になったことなどが大きな理由と考えられます。

過去の博物館入館者数の推移

単位：人・日

年度	入館者数	開館日数	年度	入館者数	開館日数	年度	入館者数	開館日数
昭35	14,129	95	56	5,199	298	14	2,263	298
36	23,822	299	57	4,847	279	15	2,553	299
37	13,486	302	58	4,138	296	16	1,968	298
38	10,138	305	59	2,100	297	17	2,004	299
39	14,222	305	60	2,823	301	18	2,005	299
40	14,819	294	61	2,451	296	19	1,855	301
41	10,335	300	62	2,506	301	20	1,864	302
42	17,670	298	63	2,581	298	21	2,395	307
43	13,587	295	平元	1,172	299	22	2,355	307
44	12,564	296	2	1,529	295	23	2,633	303
45	12,900	294	3	2,471	296	24	2,302	306
46	11,257	303	4	1,938	296	25	2,491	306
47	10,336	301	5	1,723	302	26	2,904	304
48	8,834	299	6	3,596	298	27	2,935	303
49	8,797	302	7	2,182	298	28	13,490	204
50	7,332	295	8	2,301	301	29	11,905	308
51	6,937	279	9	1,788	291	30	15,795	308
52	5,966	300	10	2,111	307	令元	14,611	282
53	6,328	299	11	3,302	296	2	6,461	260
54	6,257	298	12	2,040	293			
55	5,112	301	13	2,588	297			



絶滅危惧種のスナヤツメを寄贈してくれた小学生のみなさん

II 調査活動

1. 大字羽田日の本町の有田川川底から発見された埋没樹木群

令和元年11月に、日田市大字羽田横畑地区の河川改修工事現場内で発見された埋没樹木は、佐賀大学角淵教授による土壌分析により9万年前の阿蘇4火災流によって埋まったものと確認（大分県教育庁文化課よりご教示）されました。令和3年3月に来市し現地を訪れた国立科学博物館の矢部敦博士（地学研究部生命進化史研究グループ）により、埋没年代が明らかな樹木は珍しく研究に必要な資料となることから樹木13点が選ばれ、茨城県つくば市の国立科学博物館筑波研究施設に移送収蔵されることになりました。



有田川で発見された阿蘇4火砕流に伴う埋没樹木群の位置



河川改修工事現場に積み上げられた埋没樹木（写真左端）



最も大きな埋没樹木
（長さ約5m、直径約2.5m）

埋没樹木を置いていた現場が工事にかかることになり、令和2年4月14日に埋没樹木を羽田の発見現場より日田市森林組合の敷地内へ搬出する作業が行われ、国立科学博物館の収蔵準備が整うまでの間保管されることになりました。この間、埋没樹木は乾燥により劣化が進むことから、ブルーシートで覆い定期的に水をかけて、直射日光と乾燥を防ぐ作業を行いました。



埋没樹木の現地での積み込み作業



日田市森林組合敷地内への運び込み



保管場所への移動完了



乾燥防止のためブルーシートを設置

この期間中に、国立科学博物館の了承を得て、日田市森林組合にご協力をいただき、6月14日に報道機関を対象とした説明会を行い、28日に市民を対象とした見学会を実施しました。

見学会では、博物館協議会委員の木戸道男先生より阿蘇山の噴火と日田盆地、そして埋没樹木とのかかわりを説明いただきました。9万年前の巨木の実物を見ながら日田市の遠い過去の姿を体感できる機会となったこともあり、市内外より370人が見学に訪れました。



報道機関を対象とした説明会の様子



市民を対象とした説明会の様子

9万年前の埋没林

3例目 28日、日田で見学会

【日田】福岡・大分豪雨（2017年）の河川改修工事で見つかった約9万年前の物とみられる埋没林の市民向け現地見学会が28日午前10時から、日田市庄手の市森林組合である。阿蘇町に次いで3例目。

山火噴火の大火砕流でなぎ倒されて埋没。昨年11月、市内日ノ本町を流れる有田川の川底から大小約1000本以上が見つかった。市内では小野川（鈴連町と伏木町）に次いで3例目。

市博物館の行時志郎館長（56）によると、埋没林は近くの湿地帯のような場所まで堆積物とともに運ばれた。その後、上部を有田川が流れるようになり、湿った状態が保たれ、現在まで残ったとみられる。

大きい樹木で幅2・5メートル、長さ5メートル（全体の4分の1）。全体的に焼け焦げて空洞もあり、屋久杉に似ている。小野川の埋没林と比べると樹齢が若く、小型の樹木が多い。根も付いていることから近くで火砕流に遭ったものとみられる。樹種は不明。今後の研究で埋没林の木の種類や当時の植生環境、さらに動物の痕跡まで見つかる可能性があるという。

市博物館協議会や別府大などに国立科学博物館（東京都）も加わり、樹種鑑定や古環境復元を研究する。阿蘇山は過去4回大噴火した。中でも9万年前が巨大噴火で火砕流は半径約1000メートルの範囲を覆い尽くし、生物が壊滅。地表が陥没して巨大カルデラが形成されたという。噴火の温度は約千度とみられ、約50メートル離れた日田市でも約6、700度の火砕流で覆われたという。（小木曾満雄）

大分合同新聞 令和2年6月16日

9 万年前の埋没樹木?

阿蘇山火砕流で 有田川に100本以上



埋没樹木について説明する行時館長

28日に一般向け見学会

約9万年前の阿蘇山大噴火に伴う火砕流によって埋もれたとみられる100本以上の樹木が、日田市羽田の有田川で見つかった。市によると、火砕流で生じた埋没樹木の可能性が高く、市内での発見は3例目となる。

市が14日、保管場所の市森林組合(日田市庄手)で、報道機関向けの説明会を開いた。昨年11月末、河川の改修工事中、川底から掘り出された。樹木の一部に焼け焦げた跡や硫黄が残っていた。県教委文化課が周辺の地層を調べ、「阿蘇山火砕流による堆積物にほぼ間違いない」と判明した。

発掘物のうち、幅2・5メートル、長さ5メートルの樹木など11点を国立科学博物館の筑波研究施設(茨城県つくば市)に送る。樹種の鑑定や花粉の痕跡などを分析し、当時の環境について調査・研究を進めるといふ。

大分合同新聞 令和2年6月16日

日田市立博物館の行時志郎館長(56)は「約9万年前の日田の様子が再現され、観光資源としても役立つことを期待している」と話した。28日午前10時〜午後2時には、同組合で一般向けの見学会を開く。事前申し込み不要。問い合わせは博物館(0973・22・5394)へ。

9万年前の流木か

阿蘇山大噴火

50キロ離れた日田有田川川底から出土

約9万年前の阿蘇山大噴火で発生した火砕流でなぎ倒された流木群が日田市羽田にある有田川の川底から見つかった。阿蘇山から北に約50キロ離れた地点。市によると、3年前の九州北部豪雨で氾濫した有田川を災害対策のために改修工事しており、川底を深く掘り下げたところ出土した。大きさは10センチ



川底から発見された流木

5センチほどで、大小合わせて約100本が見つかった。市内で出土したのは3例目という。樹木は表面が黒く焼け焦げていたが、内部は生木のまま。専門家の調査で、9万年前の火砕流堆積物に埋もれていたことが判明した。樹木の一部を国立科学博物館筑波研究施設（茨城県つくば市）

【辻本知大】

毎日新聞 令和2年6月25日

9万年前の埋没樹木発見

日田市の有田川、火砕流で被災



日田市で発見された埋没樹木

日田市羽田の有田川で、9万年前の阿蘇山大噴火による火砕流で埋まった100本以上の樹木が見つかった。当時の埋没樹木の発見は市内3例目。市教育委員会は28日に見学会を開く。

28日に見学会

埋没樹木は昨年11月、九、五センチ、幅二、五センチのスギと州豪雨で氾濫し、災害対策みられる樹木もあった。専門家が進む有田川の川底が、門家らの分析で3月、阿蘇市北部の小野川と伏木町で約3センチ下の土中で見つかった。破片状の樹木がほとんど分かった。市によると、どれも焼け

今後数年かけて、一部を国立科学博物館（東京）で詳細に分析する。市立博物館によると、火砕流に覆われる前の森の様子や噴火の威力、動物の痕跡、樹木周辺の環境などの説明が期待できるといふ。同館の行時志郎館長は「私たちが暮らす大地の過去の姿が分かる。新しい発見を市民に届けたい」と話す。

見学会は28日午前10時から、同市庄手の市森林組合で。今回見つかった樹木11点を展示し、行時館長らが解説する。無料で事前申し込み不要。樹木の一部は市立博物館で展示中。市立博物館0973(2)25394。

(笠原和香子)

西日本新聞 令和2年6月25日

埋没樹木は、7月8日に矢部博士の立会いのもとで展示用に切断され、8月3日に日田市森林組合より国立科学博物館筑波研究施設に移送・保管されました。

その後、科博に保管された13点の埋没樹木の樹種分析が行われ、最も大きな埋没樹木はスギであったことが判明したほか、サワラやアスナロなどの針葉樹、アサダやカツラ、カバノキ属の一種やトネリコ属の一種などの広葉樹も確認されました。

日田市から運ばれた最も大きな埋没樹木（スギ）は、国立科学博物館本館で令和3年度の特別展「植物—地球を支える仲間たち」（展示期間：令和3年7月10日～9月20日）に出展され、展示終了後は、国立科学博物館筑波研究施設に引き続き保管されています。



特別展会場に展示された埋没樹木
(写真提供：国立科学博物館)

令和3年度国立科学博物館特別展チラシ

2. 自然環境調査事業（市民サービス協働事業）

平成29年度より、郷土日田の自然調査会(古田京太郎会長)に委託して市内の自然を調査する自然環境調査事業（市民サービス協働事業）がスタートしました。

令和2年度は、天瀬町の自然調査を継続して実施するとともに、令和元年度に調査報告書を発行した「大山町の自然」について、その内容を広く市民に公開するための自然調査報告展「大山町の自然～里山の自然とその魅力」を開催しました。令和3年1月30日（土）から3月28日（日）まで博物館企画展示室で展示し、期間中1,536人の来館者が訪れました。



パネル展示の様子



昆虫標本の展示



展示会場の様子



「大山町の自然」展ポスター

「大山町の自然」調査研究展示
日田、写真や標本も

【日田】調査報告展「大山町の自然 里山の自然とその魅力」が日田市で開催されている。市の上城内町の市複合文化施設アオーゼ3階市立博物館企画展示室で

3月28日まで。無料。
郷土日田の自然調査会（古田京太郎会長）と同館の主催。同会は市内の地域ごとに自然調査研究を進めている。2016年から約3年間、同町を対象に実施。結果をA4判の冊子（156頁）にまとめた。今回はそれを分かりやすく整理して展示している。

里山の特徴や動植物の写真、図などのパネルが28枚。11点の化石や昆虫標本のほか、町内で確認された鳥類の剥製11体もある。

同館職員の高木佳さんは「比較的面積の小さい大山に多様な自然があることを知ってほしい」と話している。午前9時～午後5時。

パネルや化石などを展示

月曜休館。問い合わせは同館（☎0973・22・5394）。（山本康裕）

大分合同新聞 令和3年2月6日

動植物の「楽園」大山町紹介

日田市の市民グループ「郷土日田の自然調査会」が約3年間かけて調査した大山町の自然を写真や標本などで紹介する報告展が、同市上城内町の市立博物館で開かれている。市街地と津江山系の中間にある同町には豊かな自然が残り、動植物の「楽園」になっている様子を伝えている。（鬼塚淳乃介）

自然分野を研究する市民でつがさえる大久保台・天竺台な
くる同会は1981年の発足以ど大山町を特徴的な5地域に分
降、市内各地を約3年間調査し、類。200枚以上の写真や説明
報告書にまとめている。大山町が入ったハネル、化石、昆虫標
では2016年から地質や植本などで紹介している。
生、鳥類、昆虫類など9分野を同博物館は「大山の山や河川
会員18人で調査した。
報告展では、地域本来の自然など豊かな自然に触れたり、考
を住民が守っている広葉樹林に「い」と呼び掛けている。
ミヤマクワガタやオオムラサキ 展示は28日まで。午前9時
などが見られる鳥宿山や、ウメ 午後5時。入場無料。同博物館
やスモモの果樹園でメジロなど 0973（22）5394。

地質や鳥類、昆虫など3年調査

市民グループ 日田市立博物館で報告展



剥製や写真の付いたハネル展示の昆虫標本や自然の写真などが展示されている（いずれも大山町の報告展）

西日本新聞 令和3年3月21日

3. 日田を流れる川の魚類調査

近年多発する水害対策として河川の護岸工事が急ピッチで進み、河川の拡幅や底面の掘り下げ工事などにより市内の河川環境は大きく変化しています。これらの工事は、人間生活を守るために必要な手段として実施されていますが、これにより水面下の淡水魚や水生昆虫、貝類などは生息環境に大きな影響を受けていることは、あまり知られていません。そこで、生態系の保護を目的に、市内河川に生息する淡水魚類などについて日田淡水魚同好会（平成28年度結成）とともに調査を行いました。

令和2年度は、花月川、串川、高瀬川、二串川、渡里川、風呂元井手、石松川、求来里川、豆田水路の調査を行いました。串川では、中流域でカジカ（大分県絶滅危惧Ⅱ類、環境省準絶滅危惧）や下流域でオヤニラミ（大分県準絶滅危惧、環境省絶滅危惧Ⅱ類）が確認されたほか、コオイムシなどの水生昆虫も採集されました。また、豆田水路では、アブラボテやヤリタナゴなどのタナゴ類の生息も確認できました。これら採集された魚は、常設展示の水辺の生き物ゾーンで展示しました。



豆田町水路での調査の様子



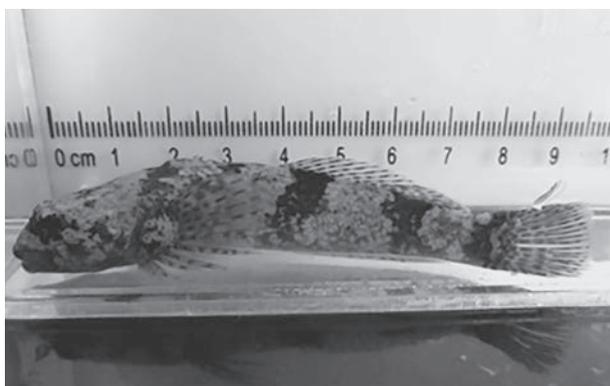
アブラボテ
(環境省準絶滅危惧)



石松川での調査の様子



花月川での調査の様子



カジカ
(大分県絶滅危惧ⅠB類、環境省準絶滅危惧)



オヤニラミ
(大分県準絶滅危惧、環境省絶滅危惧Ⅱ類)



採集した魚を展示水槽へ

Ⅲ 教育普及活動

1. 展示事業

(1) 日田市政80周年記念企画展

『水郷日田の風景～古写真で振り返る人々の思い出の場所』

令和2年10月24日(土)～12月27日(日)

場所 博物館企画展示室 期間中の来館者数 2,185人

平成17年に旧日田市と天瀬町、大山町、上津江村、中津江村、前津江村が大合併を行い、新日田市が誕生し、令和2年に日田市は市政80周年を迎えました。

現在の日田市には、起伏に富んだ山地やなだらかな台地、深い谷には豊かな清流が流れ、それらに囲まれた日田盆地が広がっています。この類まれな環境で、アユやヤマメ、山菜、米など昔から変わらぬ自然の滋味、鶺鴒舟や屋形船が川面に浮かぶ風景、温泉など、多様な郷土の恵みを受けた人々の暮らしが育まれてきました。

そこで今回の企画展では、「水郷日田の風景～古写真で振り返る人々の思い出の場所」と題して、市民からご提供いただいた思い出の写真や地図、パンフレットなどを展示する写真展を開催し、日田市で暮らしてきた人々の思い出の一場面から、市制80周年を迎える日田市の明治以降の発展の様子を振り返りました。また展示の最後に、KCVコミュニケーションズやヒタスタイルにご協力をいただき、古写真と同じ場所の現代の様子を撮影した写真を比較展示し、時代とともに移り変わっていった様子を紹介するコーナーを設けました。

本展示は日田市観光協会、日田市温泉旅館組合、天ヶ瀬温泉旅館組合、市内各商店街、各自治会、公民館、企業、法人、そして多くの市民の皆様の温かい御協力の下に開催する運びとなりました。ご協力を頂いた関係機関、関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

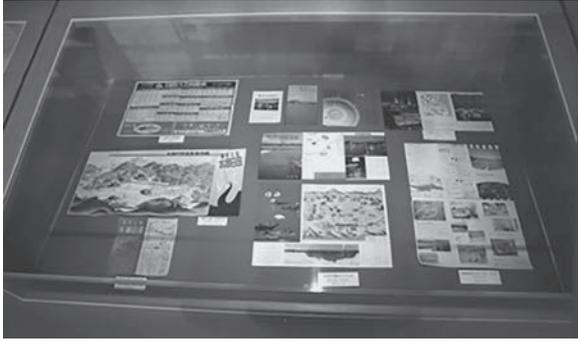
また、本企画展の内容をまとめた図録を令和3年2月20日に発行しました。この図録は、市内の図書館、公民館などの公共施設へ配布するほか、3月2日からは一般を対象に販売を行っています。



展示会場の様子



写真パネルと資料展示



昭和初期の観光パンフレット



会場内の来館者の様子



ヒタスタイルの協力による展示



KCVコミュニケーションズの協力による展示



企画展ポスター（左）
と図録表紙（右）

日田温泉街などの古い
写真を収録した図録

日田の歴史振り返る図録

市立博物館制作 古写真や地図収録

日田市立博物館は、市内の古い写真、地図、時刻表を集めた図録を制作した。明治時代の旧日田郡の地図、大正時代の中学校、町役場、旅館、昭和40年代の

日田温泉街の写真など約600点を収録している。タイトルは「水郷日田の風景―古写真から振り返る人々の思い出の場所―」。昨年の市制80周年を記念した企画展で公募した写真を中心に編集した。

行時志郎館長は「先人の努力でできた現在の市の姿を考え、さらにまちづくりを進める貴重な資料となる」と説明している。

A4判80ページ、500冊を制作。小中学校、図書館、公民館や写真提供者に配布し、300冊は一般にも販売する。税込み1,000円。問い合わせは博物館（0973・22・5394）へ。

読売新聞
令和3年4月28日

日田の風景 古写真で回顧



日田の古写真が並ぶ会場。昔を思い出しながら懐かしそうにながめる来場者

日田市制80周年記念企画として、大正、昭和の日田の古写真を集めた「水郷日田の風景」展が24日、同市上城内町の市立博物館（市複合文化施設アオーゼ3階）で始まった。入場無料。12月27日まで（月曜休館）。市内の個人や団体から提供を受けた古写真約5000点を、分野ごとにパネル70枚に貼り付けて展示。繁華街や温泉街、三隈川の風景、祭りや農林業など人々の暮らしぶりを撮影した写真から、日田の発展の様子を振り返ることができる。明治以降の街並み地図も紹介されている。

◇ 開場時間は午前9時～午後5時（入館は4時半まで）。（吉田賢治）

◇ 博物館の協力で、展示作品の一部を紹介する。

市立博物館で市制80周年記念展開幕

「水郷日田の風景」展の期間中、ツイッターの「西日本新聞 日田支局」アカウント（@nnp_hita）で、古写真を毎日1枚ずつアップしていきます。「#（ハッシュタグ）日めぐりひたむかし」で検索できます。ぜひフォローをお願いします。



昭和初期の隈町全景（原田好一さん提供）



①ノコギリによる伐採（日田木材協同組合提供）
②鯛生金山での鉱石の搬出（鯛生金山提供）

昭和30年代の天ヶ瀬温泉街
昭和30年代の駅前



昭和初期の三隈川（原田好一さん提供）



西日本新聞 令和2年10月25日

1. 普及啓発活動

(1) 一般市民対象の自然教室

博物館では、一般市民を対象とした自然教室として、日田天文同好会に指導いただいて星空観察会(春・夏)を、日田自然愛好会に指導いただいて自然観察会(春・秋)を、日本野鳥の会大分県日田地区支部に指導いただいて探鳥会(春・秋・冬)を実施してきましたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染防止対策のため、2回(秋・冬)の探鳥会のみ実施しました。

内容	実施日	場所	参加者数	指導
秋の探鳥会	令和2年11月29日(日)	亀山公園	23名	日本野鳥の会日田地区支部
冬の探鳥会	令和3年2月14日(日)	亀山公園	37名	日本野鳥の会日田地区支部



秋の探鳥会で解説する様子



冬の探鳥会に集まる参加者



水鳥を観察する様子



庄手川を泳ぐヒドリガモの群れ

(2) 子どもたち対象の自然教室

博物館では、子どもたちを対象とした下記の教室や小・中学生自然研究作品展を毎年開催してきましたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染防止対策等のため中止することになりました。

科学実験にチャレンジ教室、小・中学生対象自然観察教室(自然探検隊)、夏休み小・中学生自然教室(植物教室、昆虫教室、植物昆虫同定会、地質探検教室、干潟観察会)

IV その他

1. オヤニラミの孵化の瞬間を撮影

令和2年4月に、館内で飼育していたオヤニラミ（環境省絶滅危惧Ⅱ類、大分県準絶滅危惧）が水槽内で産卵し、その卵が孵化する瞬間の撮影を行いました。

水槽内で雌雄のオヤニラミを飼育していたところ、直径約2ミリの卵が6粒ほど仕切り板に産卵されているのが確認されました。そこで、卵を隔離して観察を続けていたところ、卵の殻を破って仔魚が飛び出す瞬間を偶然撮影することができました。この動画と写真は、新聞やテレビでも公開されました。



短波 大分県日田市の市立博物館が、国の絶滅危惧種に選定されている淡水魚オヤニラミがふ化する様子の撮影に成功した2写真（日田市立博物館提供）。

全国的にも珍しく、卵から稚魚がびよこんと飛び出す姿を捉えている。オヤニラミは攻撃的な性格で、同館では争わないように水槽に仕切りをし、雌雄を別々に飼育。その仕切りをすり抜けて雌が雄のところに行つて産卵行動をしていたという。ふ化の様子は4月29日に撮影した。

新型コロナウイルス感染防止のために人間が「3密」を避ける中、「狭い隙間を縫ってオヤニラミが密着していたとは」。行時志郎館長は感心しきり。

西日本新聞 WEB動画

西日本新聞 令和2年5月23日

2. 天瀬町馬原周辺の地層説明会

日田市観光協会天瀬支部から依頼をいただき、天瀬町馬原の出羽集落近くの谷で発見された湖成層（湖底に土砂が堆積してできた地層）の説明会を令和2年6月3日に行いました。

この地層は平成30年に北林栄一先生（元玖珠町中学校教諭）によって発見され、同年中に天草市御所浦白亜紀資料館長の長谷義隆先生と滋賀県足跡化石研究会の岡村喜明先生によって現地調査が行われました。現場は、河川の浸食によって高さ約10mを超える深い谷が形成され、谷の両側には縞状に堆積した地層が折り重なり、それが谷の入口から奥まで約100mにわたって続いている場所です。平成30年には新聞にも掲載され、美しく神秘的な地層の様子が市民の関心を集めました。

説明会当日は土地所有者の方にご協力をいただき、日田市観光協会天瀬支部をはじめ約20名の方々が実際に現地を見学しました。あいにくの小雨でしたが、地層の美しさや、その成り立ちについて参加された方々は興味津々で見入っていました。

3. ウシ柄ウナギの展示

令和2年10月に珍しい黄白色のウナギが日田漁業協同組合の養殖場で発見され、博物館に寄贈されました。通常、ウナギの体色は背側が黒で腹側が白ですが、このウナギは全身が白色で黒いブチ模様が入っていました。その配色がウシ（ホルスタイン）に似ていたことからホルスタインウナギやパンダウナギなどと呼ばれていましたが、新年が丑年にあたるため縁起を担いでウシウナギと名付け展示したところ話題となり、新型コロナウイルス感染拡大で落ち込む気持ちを少しでも明るくしたいと、日田市内外より多くの来館者が見学に訪れました。

超短波

大分県日田市の市立博物館で、白と黒のまだら模様と珍しい二ホンウナギが展示されている。写真が真。体長は約50センチ。遺伝子の



突然変異が原因で「ホルスタインウナギ」と呼ばれ、数万匹に1匹ほどしか見つからないという。10月、地元漁協が養殖している約2万匹の中から見つけ、博物館に贈った。

新型コロナウイルスの影響で博物館の来場者は激減し、4～11月は前年同期に比べ約7割減。飼育担当の橋本知佳さん(40)は「見る機会がほとんどない貴重なウナギ。写真で撮って年賀状にプリントし、丑年のスタートに幸運を送ってみては」とPRしている。

西日本新聞 令和2年12月23日

「ウシ柄のウナギ」話題

日田市立博物館「縁起物ぜひ見て」



水槽で展示されるウシ柄のウナギ

日田市立博物館(同市上城内町)で、白黒のまだら模様の二ホンウナギが、話題を呼んでいる。

ウナギは体長50センチ、全身が白っぽいクリーム色で、頭から尾にかけて黒い斑点がある。数万匹に1匹の突然変異の個体とみられる。

去年10月に市内の養殖場で見つかり、珍しいと同館に持ち込まれた。

同館の橋本知佳主査(40)は「おとなしい性格で、動きもかわいらしい。縁起が良い感じもするので、ぜひ見に来て」と話す。

【辻本知大】

た。体の模様が乳牛に似ており、来場者からは「ウシ柄のウナギ」と親しまれている。今年の干支が丑であることから縁起物として写真を撮る人も多いという。

毎日新聞 令和3年1月28日

4. 天然記念物ニホンヤマネの発見と見学会の実施

ニホンヤマネは齧歯目ヤマネ科で、体長約7～8cm、尾長約5cmのネズミに似た姿をした小型の哺乳類です。日本の固有種で本州から九州まで分布していますが、樹上で生活し夜行性であるため、あまり目にする機会が少ない動物です。冬季には土中や樹洞などで冬眠をすることも大きな特徴です。

平成21(2009)年11月に日田市源栄町で発見された1例目、令和2年1月に日田市中津江村で発見された2例目に続き、令和2年度の11月から3月にかけては、このニホンヤマネが市内で新たに3例発見されました。

市内発見例	発見地	発見状況	時期	状態	対応
3例目	前津江町 赤石	川津食品工場の 屋外コンテナの中	令和2年11月13日	成獣 活動中	確認後、放獣
4例目	前津江町 柚木	市の水道施設の中	令和2年11月25日	幼獣 死亡	回収後、 剥製を作成
5例目	上津江町 白草	伐採後、山積みされて いた杉材の上	令和3年3月9日	幼獣 冬眠中	保護後、放獣

ニホンヤマネは、国の天然記念物に指定されており、捕獲や人為的な移動、飼育などは法律で禁止されています。

3例目の個体は成体で生きた状態のまま保護されました。成体であり冬眠に十分な状態であったため、動画撮影後に捕食動物などから保護するため山積みにした枯草の中へ放ちました。

4例目の個体は、市の水道施設の中で死亡している状態で発見され、博物館に持ち込まれました。そこで、ニホンヤマネの姿を市民に見てもらうために剥製の制作会社（永松剥製製作所）に依頼し、展示標本にいただきました。

5例目の個体は、山林伐採中に生きたままの状態に保護され、上津江振興局に持ち込まれました。まだ幼体であり、冬眠の最中で動きが緩慢で天敵に襲われる危険性が高いことなどから、専門家の意見も踏まえて冬眠から目覚める時期まで上津江振興局職員が一時的に保護し、冬眠から目覚めた後に生息場所へ放ちました。



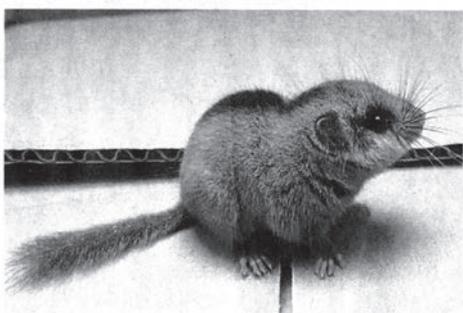
ニホンヤマネの剥製
(前津江町)

国天然記念物「ニホンヤマネ」が日田市前津江町で見つかった。本州、四国、九州の山林に生息する夜行性の希少動物で市立博物館によると日田では2018年1月以来、3例目という。特産のユズこししょうを生産する川津食品の工場敷地で、社員の羽野日出男さん(38)が13日午前10時頃、ユズを入れる古い箱の中で、

長は「冬眠場所を探して、暖かい民家近くにきたか、他の動物に襲われ逃げ込んだきた可能性がある」と話す。羽野さんは「小さくて、よちよち歩く姿がかわいらしい。近くに家族がいるなら、一緒に無事に過ごしてほしい」と話した。

ニホンヤマネ見つかる

国天然記念物 日田で3例目



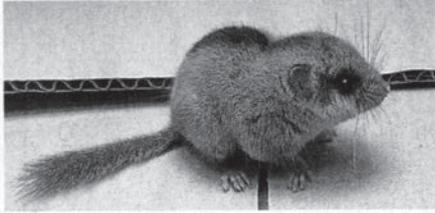
日田市前津江町で発見されたニホンヤマネ (日田市立博物館提供)

国天然記念物「ニホンヤマネ」が見つかった。本州、四国、九州の山林に生息する夜行性の希少動物で市立博物館によると日田では2018年1月以来、3例目という。特産のユズこししょうを生産する川津食品の工場敷地で、社員の羽野日出男さん(38)が13日午前10時頃、ユズを入れる古い箱の中で、

走り回るリスのような動物を見つけた。ふさふさとしたしっぽを含めると13〜14センチ、背中に1本黒い線が入り、くりくりとした目が特徴。成獣とみられ、雌雄は不明だという。連絡を受けた博物館職員が記録のため、写真、ビデオ撮影をした後、近くの畑地に枯れ草で隠れ家をつくって放した。行時志郎館

読売新聞 令和2年11月19日

日田市で見つかったニホンヤマネ
(日田市立博物館提供)



珍客「森の妖精」現る ニホンヤマネ、日田の会社に

「森の妖精」とも呼ばれる国の天然記念物ニホンヤマネが、大分県日田市前津江町の食品会社敷地内に現れた。連絡を受けた同市立博物館職員が確認。記録用に撮影後、野に放した。市内で生きて見つかったのは、2018年末以来2例目。元気に動き回る姿を撮影できたのは初という。

同博物館などによると、社員の羽野日出男さん(38)が13日午前10時すぎ、敷地内のコンテナ(縦80センチ、横40センチ、高さ30センチ)の中で見つけた。体長約8センチ。博物館職員は背中黒い線や大きな目、しっぽなどの特徴から判断した。

「清泉寮やまねミュージアム」(山梨県)によると、日本の固有種であるニホンヤマネは九州や四国、本州に生息する哺乳類。夜行性で、木の上で過ごし、冬眠期間も長いことから人目に付くのは珍しいという。羽野さんは「山奥の工場ですが、こんなにかわいい小動物に出合えて驚きです」と話した。(吉田賢治)

▶西日本新聞WEBに動画

西日本新聞 令和2年11月18日

前津江町の工場で見つかったニホンヤマネの成体(日田市立博物館提供)



【日田】日田市前津江町赤石の食品工場で、国の天然記念物「ニホンヤマネ」が見つかった。体長は8センチほど。市立博物館によると、市内では3例目。動く姿が目撃されたのは初めてという。

13日午前10時ごろ、ゆずこしょうなどを製造する川津食品の羽野日出男さん(38)が、網目状のコンテナの中で見つけた。「リスか何かか」と近づくと、背中には1本の黒い縦線が入り、ヒゲを蓄えた特徴的な姿。「ニホンヤマネかも」とピンときた。2018年に同市中津江村で冬眠の中

かわいい♡山の妖精

前津江 食品工場にニホンヤマネ

個体が布団の中から出てきたというニュースを思い出したのだ。駆けつけた市立博物館の職員が認定した。

ネズミなどと同じげっ歯目に属するヤマネ科。「山の妖精」「山の守り神」との異名を持つ。捕獲や移動、持ち出しは禁じられている。職員が写真や映像に収めて記録。野に帰した。

羽野さんは「冬ごもりの準備で人里に下りてきたのかも。春先に元気な姿が見られるとうれしい」と再会を楽しみにしていた。

(首藤福功)

大分合同新聞 令和2年11月19日

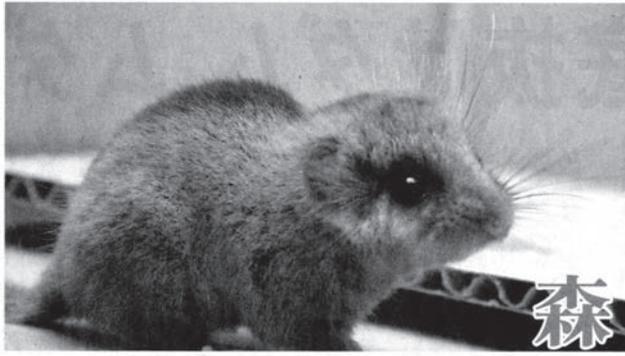
ふきふきとしたしっぽと背中の黒い線が特徴。「森の妖精」とも呼ばれ、捕獲は法律で禁止されている。9日に林業者が木の上で寝ている個体を偶然発見。冬眠中で動きが鈍く、キツネやタカに捕食されないように市立博物館が一時的に保護している。

▶ニュースサイト
▶西日本新聞Webに動画

大分県日田市は18日、同市上津江市の山林で見つかった国の天然記念物ニホンヤマネの写真を公開した。体長6センチ、体重9・2グラム。まだ子どもともう。

公開中も動かず、背中を丸めてやすやすと眠るニホンヤマネ。触りたい園児たちも、起こさないように体を丸めて我慢していた。

西日本新聞 令和3年3月19日



日田市で見つかったニホンヤマネ
日田市立博物館提供

森の妖精

ニホンヤマネ発見

日田市前津江町赤石の食品工場で国の天然記念物で「森の妖精」と呼ばれるニホンヤマネが見つかった。市内で発見されたのは2年ぶり3例目。市立博物館が確認して記録のために撮影した。同館によると、今月13日、食品工場敷地内にあるユズを入れたコンテナ内で従業員が見つけた。連絡を受けた同館学芸員が確認したところ、体長約8センチで背中黒い線があり、大きな目とふさふさした尾の特徴からニホンヤマネと断定した。

【日本知大】

国の天然記念物 日田で2年ぶり3例目

ニホンヤマネは本州と四国、九州の低山地帯などに生息するネズミの仲間。寒くなると木の空洞や落葉の下で冬眠する習性があり、温かい場所を求めて迷い込んだか、他の動物に襲われて逃げてきた可能性があるという。

過去に市内で見つかったニホンヤマネは死骸と冬眠中の個体

毎日新聞
令和2年11月27日

尻尾ふさふさ ニホンヤマネ

【日田】冬眠していたニホンヤマネ（国の天然記念物）の幼体（体長6センチ）が日田市上津江町で見つかった。

18日、市上津江振興局で、近くのすぎっ子こども園の園児6人が観賞した。

9日、同町白草地区熊戸で、杉林を伐採していた作業員がネズミのような小動物を見つけた。市立博物館の職員が背中の黒い線やふさふさの

幼体、日田で発見

尻尾などから、ニホンヤマネと認定した。外敵から守るため、当分の間、同振興局で保護する。

園児は、プラスチックケースの中で丸まって熟睡中の「森の妖精」に興味津々。ヤマネにちなみ「やーちゃん」と名付けた。

2009年以降、市内では5例目。昨年11月にも前津江町で2個体が見つかったばかり。川津杏菜ちゃん（6）顔写真②は「大きい声を出すとびっくりすると悪いから、静かに見た。丸まってとてもかわいかった」と喜んでいました。

（首藤福功）



①顔（右側）に尻尾をつけるように横向きで丸まって熟睡中のニホンヤマネの幼体
②プラスチックケースで熟睡中のニホンヤマネを静かに見守る子どもたち③18日、日田市上津江振興局



大分合同新聞 令和3年3月19日

5. 天ヶ瀬温泉地質勉強会

日田市観光協会天瀬支部の依頼を受けて、博物館協議会委員の木戸道男先生を講師にお招きして令和3年3月26日に天ヶ瀬温泉周辺の地質についての勉強会を行いました。勉強会では、観光協会や地域住民など約30人が参加し、桜滝から玖珠川沿い、赤岩川の山伏の滝までを歩きながら、地形の成り立ちや天ヶ瀬温泉誕生の歴史などについて学びました。

日田・天ヶ瀬温泉でフィールドワーク
住民ら30人 地質専門家が案内



桜滝の前で、参加者に成り立ちを説明する木戸さん（中央）

日田市観光協会天瀬支部は3月26日、地質の専門家と地域を歩いて巡り、天ヶ瀬温泉周辺の成り立ちを探るフィールドワークを開いた。地元住民ら約30人が参加。日田玖珠地域の地質に詳しい木戸道男・元久留米大講師が案内した。観光スポットの桜滝で木戸さんは、約9万年前の阿蘇山の噴火に伴う火砕流が到達し、徐々に浸食されて現在の景観ができていると紹介。玖珠川沿いでは、近くに火山がないのに一帯に温泉が湧く理由について、中に深さ数キロ以上の断層が通っていて、雨水が大深度の高い地温によって熱せられ、断層に沿って地表に噴き出していると解説した。

参加者からは「昨年夏の豪雨による泉源の影響で、温泉が枯れる恐れはないかと質問が出された。木戸さんは「10万年后は分からないが、こしはらくは大丈夫」と答えた。（吉田賢治）

大分合同新聞 令和3年4月7日

日田市立博物館 年報 第54号

2022年1月（令和2年度版）

編集・発行 日田市立博物館
〒877-0003 日田市上城内町2-6
TEL 0973 (22) 5394
印刷 カワハラ企画